

いっしょへ

ラジオネーム：グリーンティ

あなたが天国に旅立ってから4年経つのに、いまだに信じられません。私が考えるあなたのイメージは変わらず、離れたところに住む従弟で、夏休みや年末年始に会えそうな気がするけれど、もう会えないのですね。

先日、久しぶりにあなたの弟に会いました。5年ぶりの再会に、話も止まらず、思い出の場所にでかけるなどして、それはもうあつという間の時間でした。

5年前、あなたとあなたの弟と私で行った遊園地、覚えていますか？お化け屋敷に入ろうとあなたが誘ってきて、でも私は怖いから嫌だと伝えると、「腕につかまっていいから。いっしょ」と結局お化け屋敷に入ることに。私は、あなたが歩きにくいほどにつがみつки、お化けと闘いながらも、あなたの頼もしさを感じました。そのお化け屋敷にまた入りました。あなたの腕の安心感がなくとも、お化けが怖くなくなったその時間の経過が、とても寂しく感じました。

あなたが突然、バイクの事故でいなくなってしまったことを聞いた時には、耳を疑いました。なにかのウソなのではないか、信じられませんでした。いや、信じたくなかったのかもしれませんが。

だんだんと状況が理解できるようになってきたのは、あなたの葬儀の日程を聞いたとき。「本当のことだったんだな」と思うと同時に、悲しみがどっと押し寄せてきました。なんとか葬儀に参列したいと思いつつも、離れたところに住む私は日程が調整できず、伺いに行けませんでした。それも後悔のひとつです。いまだにお線香をあげに伺えていないことも、ずっと気がかりで、あなたのことを考えれば考えるほど、ネガティブな気持ちにばかりなってしまう。

ただ、あなたは明るい性格で、いつもまわりには友だちがたくさんいて、命日にはたくさんの方たちが手を合わせに来てくれると聞きました。そのことを聞いてからは、あなたはしみりするのではなく、明るくしてほしいと願っているのではないかと考えるようになりました。もしかすると、あなたの弟との久しぶりの時間も、一緒にいてくれたのかも知れません。だから今、あの化け屋敷も怖くなかったのではないのでしょうか。

でもそんな風に言いかねないのはいけませんね。その言葉が、笑顔であいらせいでいいからね。

遊園地に行く車内で流れていた曲はクエストします